



トークンレス・ワンタイムパスワード

PassLogic

エンタープライズ版

バージョンアップ概要とリリースノート(エンタープライズ版 v5.0)

2023/4/20



1. リリースノート
2. ピックアップ

PassLogicの歩み

マトリックス専用から「多要素認証プラットフォーム」へ高機能化へ

1997 「乱数表から抜き出してワンタイムパスワードを生成する」システム
PassLogic認証方式を発明。

2000  PassLogic認証方式が米国特許 (US6141751) を取得。会社設立。

**2000
|
2006** パスロジック方式の技術ライセンスを日本企業へ提供。

2007 PassLogicのパッケージ販売を開始。
SSL-VPN連携機能を実装。

2008  Webサービス組み込み用APIを強化。
スマートデバイスにいち早く対応。

2009 Webアプリとの連携機能（リバースプロキシ & SSO）を実装。
LDAPからのユーザーID同期を実装。

2010 セキュリティポリシーや運用機能、連携機能など基本機能を大幅に拡充。英語対応し海外展開が可能に。マルチテナント版リリース。

2011 クラウドアプリ連携（SAML）に対応。
スマートデバイス最適化。

2012 マルチテナント版機能拡充しサービス
プロバイダのデファクト採用の礎に。
（ソフトバンク/富士通/KDDI/NEC/IIJなど）

70万ID突破

2013 運用の自動化を実現する機能拡充。

80万ID突破

2014  小規模から大規模要件まで対応可能なエンタープライズ版をリリース。

90万ID突破

2015  エンタープライズ版の機能拡充。主要連携製品とメーカー間の検証を完了。
ソフトウェアトークン提供開始。

100万ID突破

2016 利用者視点の機能強化を中心に、計5回のバージョンアップ、約70の機能追加・改善を実施。

2017 IPアドレス制限、Windowsログオン、PKIに対応のメジャーバージョンv3.0リリース。ハードウェアトークン対応、API提供開始のv3.1リリース。

110万ID突破

2019 エンタープライズ版にマルチテナント機能提供開始。

2020 PassLogicクラウド版提供開始。

130万ID突破

2021 ログインプロテクト機能リリース。

2022 レジリエントサービスリリース。

2023  Windowsシームレスサインオン機能リリース。

PassLogic

サポートについて

PassLogic エンタープライズ版Ver.4以降のサポートにつきましては、以下のように変更いたします。

- ・ OS : REHLサポート期間（Maintenance Support2の終了日）までをPassLogicの通常のサポート期間とします。
- ・ OSのサポート期間からMAX 3 年間で延長サポート期間とします

通常サポート：

- ・ バグ修正を含むアップデート、対応策、またはパッチを提供します。
- ・ 報告された問題を修正するには、原則ソフトウェア・アップデートが必要になります。

延長サポート：

- ・ 契約更新や ID 追加時にライセンスファイルの提供をいたします。
- ・ お問合せ対応にあたり、事象の再現確認が必要となる場合には、パスロジ社が保有するRHELの最終リリースバージョンを使用します。

※ お客様環境で使用されている RHEL にバージョンを合わせた再現調査はできないことご了承ください。

※ RHEL 7 以降の OS が対象となります。RHEL 6 以前の OS は対象外となりますのでご注意ください。

※ 延長サポートは、RHEL のサポート終了後 3 年間で上限として提供いたします。

- ・ 機能追加や不具合/脆弱性を修正するパッチは提供されません。

対象バージョン	通常サポート	延長サポート
PassLogic エンタープライズ版 v 5.0 (RHEL8)	2029年5月31日	2032年5月31日
PassLogic エンタープライズ版 v 4.3.0～4.3.2 (RHEL8)	2029年5月31日	2032年5月31日
PassLogic エンタープライズ版 v 4.0.0～4.2.0 (RHEL7)	2024年6月30日	2027年6月30日

(PassLogic エンタープライズ版Ver. 3 以前につきましては、変更ありません。)

リリースノート

リリースノート

pickup

左記pickupラベルの項目は本資料内で概要をご紹介します。

【機能追加】

- 「PassLogic for Windows Desktop」に「シームレスサインオン」機能を追加しました。 pickup
- Ver4.3.1以降のバージョンからVer5.0へのバージョンアップについて、同一サーバでのアップデートを可能にし、バックアップコンバーターによるコンバート手順を簡素化しました。
- SAMLでの連携パラメタの指定を改善しました。 pickup
 - ユーザのattribute/固定値を指定可能としました。
 - 一つのパラメータに対し複数の値を指定可能としました。
- Radius Attribute名に"_"を含むことができるようにしました。
- ロータート済みログファイル名への日付の付与を明示的に指定するようにしました。
- Postgres13/pgpool-II 4.2を使用するようにしました。
- バージョンアップ時に対象バージョンにデータ変換を行うツール（バックアップコンバーター）をVer5.0に対応しました。
- useradmin/operator権限の管理者でもログ閲覧を可能とすることができるようになりました。
- PassClip_L/TOTPのPINコード機能を改善しました。
 - PINコードの最小桁数の制限を可能としました。
 - PINコード変更時に変更前のPINの確認が必要とできるようにしました。
 - 管理者が通常業務ではPINコードが見えないようにしました。
 - PINコード変更時の設定手順を改善しました。
 - ポリシー設定のパラメータ設定機能の利用を有効化した時のPINコードの表示位置を改善しました。
- Passlogic for Windowsのサイレントインストール/サイレントアンインストールをサポートしました。 pickup



【仕様変更】

- APIメール設定機能を削除しました。
(現行バージョンでAPIメール設定をご利用になっている場合は、別途ご相談ください。)
- PHP起動方式をphp_fpm化し、処理性能を向上しました。
(システム起動停止手順や、チューニング上のポイントの変更があります。)
- operatorでPassclipLのリセットを可能としました。
- Passlogic for Windows 3.0.0で、32bit OS, Windows 8は非サポートとなりました。

【不具合修正】

- 子テナントのLDAP ID同期実行中に、対象子テナントを削除できてしまうことがある不具合を修正しました。
- マルチテナントでPKIのルート証明書の発行/更新を行うと、ゴミファイルが作成される事がある不具合を修正しました。
- テナント削除後もRadiusのテナント利用制限の設定が残ってしまう不具合を修正しました。
- token.phpからのパスワード変更時にタイムアウトした時の画面遷移の不具合を修正しました。
- マルチテナントのテナント切り替え画面でソートを実施した時の不具合を修正しました。
- restore.shを-cオプションで実行するとエラーが発生する不具合を修正しました。
- メールアドレスに "+" が含まれていると通知メールを送信できない不具合を修正しました。
- PDOのエラーがログファイルに書き込まれない不具合を修正しました。
- シングル構成時に、pm.logにremote_ping :ngのメッセージが出力されてしまう不具合を修正しました。
- PKI自動発行機能(ユーザ初回ログイン時)を利用した場合、管理者画面「クライアント証明書管理」でのメールアドレスが不正な値になる不具合を修正しました。
- RHEL 8.7でinstall時にhttpdが起動しないことがある不具合を修正しました。
- operator権限の管理者がユーザー一覧を表示したときに不正なヘッダが表示される不具合を修正しました。
- Ver4.3.2用の不具合修正を吸収しました。





ピックアップ

「PassLogic for Windows Desktop」に「シームレスサインオン」機能を追加

トークンレス・ワンタイムパスワード
PassLogic

PassLogicの「トークンレス・ワンタイムパスワード」をはじめとした認証機能をWindows OSへのサインオンに適用する「PassLogic for Windows Desktop」の機能を拡張し、Windows OSにサインオン後、ネットワーク上の業務システムに、認証作業（パスワードの入力等）不要でサインオンすることが可能となる「シームレスサインオン」機能を追加しました。



SAML連携時にPassLogic(IdP)からSPに送信するSAML Responseにおいて、一つのAttribute (Name)に対して複数のAttributeValue (値)を送信することが可能になりました。

Attribute mapping1		氏名	複数値 ☒	カンマ区切り
Attribute mapping2		- uid uid@ドメイン メールアドレス 氏名	複数値 ☐	カンマ区切り スペース区切り コロン区切り セミコロン区切り 改行区切り
Attribute mapping3		社員番号 部署 電話 備考	複数値 ☐	
Attribute mapping4		ユーザごとのアトリビュート 固定値	複数値 ☐	
Attribute mapping5		-	複数値 ☐	

例)

区切り文字を「カンマ区切り」に指定し、対象となる内容に“AAA,BBB”と登録した場合、SAML Responseで該当するAttribute (Name)のAttributeValueは“AAA”と”BBB”と別々の値で送信します。(複数値設定を行わない場合は”AAA,BBB”と一つの値として送信します。)

【サイレントインストール】

zipファイルを解凍したフォルダーで下記コマンドを実行してください。
インストールを実施し、OSが自動で再起動します。

【シームレスサインオン機能を利用する場合】

```
msiexec.exe /i PassLogic_WSI_x64.msi /passive
```

【シームレスサインオン機能を利用しない場合】

```
msiexec.exe /i PassLogic_x64.msi /passive
```

【サイレントアンインストール】

zipファイルを解凍したフォルダーで下記コマンドを実行してください。
アンインストールを実施し、OSが自動で再起動します。

【シームレスサインオン機能を利用している場合】

```
msiexec.exe /x PassLogic_WSI_x64.msi /passive
```

【シームレスサインオン機能を利用していない場合】

```
msiexec.exe /x PassLogic_x64.msi /passive
```